

令和2年第1回定例会代表質問書

会派名 清新

質問者 山田 明

質問事項(大項目)	質問内容	答弁者
新しいまちの顔づくりプロジェクト」について	<p>議長の許可を戴きましたので会派清新を代表し、令和2年度の町政執行方針並びに教育行政執行方針に対し、町長と教育長に代表質問致します。今回の代表質問については、先日の議会運営委員会に於いて、簡潔に行うと申し合わせているので、早速質問に入らせて戴きます。まずは町長に伺います。第一期の当別町、まち・ひと・しごと総合戦略の成果を踏まえ、当別町第六次総合計画が基本構想編と二期目となる総合戦略編で構成され、策定されました。第一期の総合戦略として、数値目標及びK・P・Iに於いては、ほとんどの項目で目標値が達成されましたが、依然として人口減少、少子高齢化、札幌圏への転出超過は歯止めがかかりません。その様な状況の中、今回の執行方針に於いて、これらの課題に取り組む町長の確固たる決意を感じました。会派清新としても、これらの課題に対し、町部局と共に課題克服に向けスクラムを組んで取り組むたいと考えます。</p> <p>そこで町長に何点か伺います。先ず初めに「新しいまちの顔づくりプロジェクト」について伺います。(株)ロイズコンフェクトと連携した JR 札沼線の新駅の設置と、その周辺のまちづくりについては、JR 北海道や北海道の他、関係機関と協議を重ね、実現に向けて取り組んでいると、捉えていますし、大いに期待を寄せています。そこで現在までの取組状況、及び進行状況はどの様になっているのか。又、町側の負担となるインフラ整備等の見通しはどの様に考えているのか伺います。</p>	町長
「災害に強いまちづくりプロジェクト」について	<p>次に、「災害に強いまちづくりプロジェクト」について伺います。老朽化が進む役場庁舎の更新については、防災拠点の観点からも喫緊の課題であり、早急な建替えが必要であると捉えています。町の今後の財政の見通しを踏まえ将来負担を少なくする為に、耐震化されている当別小学校の跡地利用は考えられないか伺います。又、今回新庁舎構想調査事業の予算がついていますが、役場庁舎の新築工事、民間活用によるP・F・I事業及び、当別小学校の改修工事による跡地利用等の比較検討は行われるのか伺います。</p>	町長

<p>当別町 150 年について</p>	<p>次に、当別町 150 年について伺います。当別町 150 年に向けて「NHK のど自慢」や「花火大会」等、各種イベントが企画されているが、一番肝心な事である、全町を挙げて 150 年を盛り上げるという町民意識が希薄に感じます。観光協会、商工会、JA 等、町内各団体へ働き掛けて、150 年に対する町民の意識の底上げを図る必要があると考えますが、町長の見解を伺います。</p>	<p>町長</p>
<p>一体型義務教育学校に向けた取組について</p>	<p>次に教育長に伺います。一体型義務教育学校に向けた取組について伺います。平成 29 年 4 月より小中一貫教育が本格的にスタートし、3 年が経過しました。その取組みの中で地域の特色を生かした教科の導入に於いて、「ふるさと教育」、「国際理解教育」、「キャリア教育」の三本柱からなる「当別みらい学」の創設に向けた取組が行われていると捉えているが、現段階で、どの程度まで進んでいるのか。又、今後 9 年間の教育過程に於いて子供達に、どの様に指導していくのかお伺いします。</p>	<p>教育長</p>
<p>教職員の働き方改善に向けた取組について</p>	<p>次に教職員の働き方改善に向けた取組について伺います。新学習指導要領実施に向けて、小学校での外国語教育やプログラミング教育が新たに開始されるが、働き方改善に向けた取組を行う上で、子供達に効果的な授業や教科指導の充実は図れるのかお伺いします。</p>	<p>教育長</p>
<p>「幼・保・小接続プログラム」の実行について</p>	<p>次に「幼・保・小接続プログラム」の実行についてお伺いします。幼・保・小接続プログラムが作成され、0 歳から 15 歳迄の教育が、より連続性のあるものとなった事は一定の評価をしますし、今後に期待します。その上で昨年も質問しましたが、幼児教育に於いて遊びを通した学び、及び、当別町の自然を生かした、自然と触れ合う事による学びは検討されているのかお伺いいたします。</p>	<p>教育長</p>

令和2年第1回定例会代表質問書

会派名 爽新

質問者 古谷陽一

質問事項(大項目)	質問内容	答弁者
農業10年ビジョン推進プロジェクトについて	<p>当別町の基幹産業は農業であります。札幌近郊の田園都市として発展している町であり、農業10年ビジョンで掲げる「農業算出額100億円」達成のため、「当別町農業総合支援センター」を設立し、取り組み強化を図る方針であります。私は100億円の目標達成のために農業関係団体が更に連携して取り組みを強化しなければならないと考えているが、担い手不足への対策として「スマート農業」の推進は大変有効であると考えている。更に「ほ場の大区画化」などの基盤整備はスマート農業の効果を高めるだけでなく災害に強い農業農村づくりにも繋がると考えています。近年全国的に自然災害が多発している中、特に豪雨による湛水被害から農地を守り、当別町農業の生産性を高めるためには「ほ場の大区画化」も必要と考えるが、この一年、何を重点的に、具体的に農業ビジョンの推進を図ろうとするのか、町長の考えを伺います。</p>	町長
産業力の強化に係る施策について	<p>宮司町長の「当別町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を始めとするこれまでの数々の計画や施策については、それぞれの事業実施や事業展開において農業関係団体、商工業団体、町内外の企業等々としっかりと連携しながら取り進められ、それぞれ成果として実を結び、高く評価しているところであります。しかしながら、町長が執行方針において述べられたように当別町の人口に関しては、人口減少と少子化に歯止めがかからないことから、私もとても憂慮しているところであります。このような状況を打開していくためにも、執行方針で述べられた戦略プラン1.の産業力の強化に係る施策の展開での「企業誘致推進プロジェクト」は人口減少といった課題解決のためにも着実に推進していかなければならない重要な施策の一つであると考えています。私は、まちの産業力の強化を考えると、国道337号、275号のポテンシャルを最大限活用すべきであり、これらの国道沿線に食品関連企業、流通業を中心とした企業誘致を推進すべきと考えています。これらの地区に企業の進出、立地を促すためにも都市計画の指定等を含めた土地利用の見直し、道路、上下水道といったインフラ整備が必須となってくることから、これらの見直しと具体的な整備を行う考えはないのか伺います。</p> <p>また、町では工業団地がない中でもこれまで企業の進出を促す</p>	町長

	<p>ために立地可能な土地情報等を取りまとめられ、進出を考えている企業に対して遊休地、事業所跡地等々、インフラ整備状況等の情報を提供されてきており、現時点で提供出来る土地情報を把握されていると思うが、「事業投資の動きが活発化してきている」とのことですので、今後の見通しについて伺います。</p>	
公共交通活性化プロジェクトについて	<p>J R 札沼線の北海道医療大学駅以北が5月6日をもって廃止されることから、それに先だって4月1日から代替交通として当別町と月形町を結ぶバスが運行されます。町長は公共交通活性化プロジェクトにおいて、鉄道、バス、タクシー等を統合した交通サービスを構築すると表明されていますが、今後、町全体でどのように進めて行くのか伺います。</p>	町長
林業振興によるエネルギーの地域循環プロジェクトについて	<p>昨年、木質チップの製造、販売を行う共同事業体が組織され、旧中小屋中学校も拠点にその生産が始まったところである。「化石燃料を1トンも買わなくて済む町」へのきっかけとなり、持続的に森林資源を再生産することであるが、加えて森林運営についても間伐や林道などの森林整備を進めている訳であり、町として林業を活用した再生エネルギーの利用とふるさと納税の返礼品として利用されている例があるが、林業振興をどのように進めて行くのか伺う。</p>	町長
当別高校の今後のあり方について	<p>本庄教育長の教育行政執行方針の中で、1.の学校教育の主な施策のうち、「当別高校の今後のあり方」について検討を行い、生徒、保護者から選ばれる学校となるため方向性を打ち出すとのことだが、本年定員80名に対し、志願者は60名程度であり、定員割れの状態である。今後特徴があり、町内の中学生が多く志望する高校とすべきと考えるが、教育長の考えを伺います。</p>	教育長

令和2年第1回定例会代表質問書

会派名 緑風会

質問者 秋場 信一

質問事項(大項目)	質問内容	答弁者
新しいまちの顔づくりーJR新駅について	<p>当別町では既に当別駅と太美駅を中心とした、コンパクトなまちをつくるための中心市街地での立地適正化計画を進めています。これは本町第6次総合計画と並行した形で進めているわけですが、そのような中、これまでの計画にはなかった公民連携による新駅の設置とその周辺まちづくりの取り組みが執行方針で述べられました。まちに人を呼び込む巨大なアミューズメント施設が建設され、交流人口を獲得するためのJR駅がそこに出来ることは素晴らしいことであるが、冒頭に述べた既存の2駅を中心とした町づくりに大きな影響を及ぼすことはないのか。</p> <p>また、新駅周辺のまちづくりについては、どのようなコンセプトとターゲットをもって定住人口を増やすことにつなげて行くのか、その戦略について伺う。</p> <p>新駅が基本的施策として戦略プランのひとつに上げられたが、これらに対するの予算措置が考えられるが、町として今後新たな財政負担になる懸念はないのか。</p> <p>三つ目の新駅構想で、特にこれまで太美駅のバリアフリー化など、まちづくりが停滞することなく進めていかなければならないが、バリアフリー化を願う方たちや太美地区の住民にはていねいな説明が当然必要と考えるが、どのように考えているか伺いたい。</p> <p>新駅をつくる場合に、町としてどのような支援を考えているのか。そこに税の投入となれば、その説明が求められるが、民間のプロジェクトに絡めて公民連携の費用負担については色々な考え方があられるかと思われるがJR側・民間側・当別町、三者それぞれの負担の持ち方について現状と今後の考え方を伺う。</p> <p>JR北海道や運輸局など関係機関との検討会議が始められたことが方針の中で述べられているが、JRの電車が停留するための乗降者の数やその他の条件が満たすことが可能なのか。そのために、当別町として快速化の要望をしている現状で、ダイヤへの悪影響にならないのか。検討会議から見えてくる課題など乗り越えるべきハードルはないか、現時点の進捗状況を伺いたい。</p>	町長

<p>当別小学校の跡利用について</p>	<p>義務教育学校の完成後に旧小学校跡には当然のようにその利用をどうするのか小学校区であることから、中心市街地にあり、大規模敷地を擁しています。その立地は好条件下にあり、このようにまとまった敷地をどのように利用していくのか、議論を要すことと考えられる。加えて、この場所の町民の関心度は非常に高く、近く策定される立地適正化計画や令和2年度から調査が始まる新庁舎の建設などでコンパクトなまちづくりに欠かすことのできない非常に重要な場所であり、利用方によっては更に付加価値を上げられるものと考えられます。まだ新しい体育館は再利用し、リノベーションなど効果的な利用で、その条件を最大限活かすことで、町民の納得できる計画につながるものと考えます。そこで聞きますが令和4年からは児童が移ることが決っています。早いうちから時間をかけて広く町民や専門家の意見を取り入れた中で進めるべき非常に重要なことと考えてます。入念な調査のもとに、駅周辺プロジェクトと絡めた町民の合意をどのようにとっていくのか。今後の考え方や計画など進め方について伺う。</p>	<p>町長</p>
<p>子育て応援プロジェクトについて(子育て世代向け町営住宅)</p>	<p>集約された公共施設をどのように配置し、都市機能とどう繋げていくのか、立地適正化計画を基に今後、簡単ではない取り組みが予想される中、その最初とも云える教職員住宅を利用した子育て向け町営住宅の改修工事と思われれます。このことは立地適正化計画の一つの手段として、居住誘導するうえでは効果的な施策と考えられ、会派として好評価するところです。具体的には当中前の教員住宅を4棟の内の1棟分8世帯の改修ですが、その後の計画について伺う。</p> <p>教員住宅4棟の土地購入予算が付けられているが、購入となれば相応の判断根拠とその理由が求められ、この土地がどれだけ購入の必要性があったのか借地のままの条件を続けなかった説明を伺う。</p> <p>また、今後、他の同様のケースであれば、同じ考え方で行くのかどうか。そして残りの3棟の改修はどのように進めて行くのか。民間業者の圧迫にならぬような調整が必要と考えられるが伺う。</p>	<p>町長</p>
<p>当別高校の今後のあり方について</p>	<p>今後、生徒や保護者から選ばれる学校になるための方向性を北海道教育委員会と協議を進めていくとのことであるが、町の唯一の高校として大きな存在と認識しているが、町としてもその重要性を鑑み、選ばれる学校になるための、積極的にフォローして行くことで町の評価も上がるものとするが、たとえばJRで通って来る学生に対し、通学定期券の購入支援や医療大との接続支援のような、大学側との協議が必要だが、進学枠を設けるなど、何らかのインセンティブを考えていくべきではないか。教育長としての考えを伺いたい。</p>	<p>教育長</p>

令和2年第1回定例会代表質問書

会派名 公明
質問者 五十嵐 信子

質問事項(大項目)	質問内容	答弁者
「災害に強いまちづくりプロジェクト」について	<p>ただいま議長の許可をいただきましたので、会派公明を代表いたしまして町政執行方針並びに教育行政執行方針に対する質問をさせていただきます。町長がのべられました執行方針の中に令和元年度が最終年となった第1期の「当別町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の期間中において、全国からたくさんの応援をいただきふるさと納税も伸びたこと、また「北欧の風道の駅とうべつ」の開業、企業誘致、公共施設への再生可能エネルギーの導入、「当別町農業総合支援センター」の設立、そしてコミュニティー・スクールの設置、小中一貫教育の開始と多岐にわたり目標を達成されてきたことをとても評価しております。時同じくして当別町150年の節目と新しい総合計画でスタートとなる年。私たち会派公明も女性目線で町長が目指す目標に向かい一步一步確実に進めていけるよう代表質問をいたします。</p> <p>初めに「災害に強いまちづくりプロジェクト」についてお伺いいたします。近年は予想もしない気象により様々な分野で大きな影響が起こり「想定外」という言葉もよく聞かれることが多くなりました。町民も経験のない被害に遭われたり被害はなくとも不安な思いで日々を過ごしました。このような体験はしたくはないものの、経験から危機管理の重要性を私も含め皆さんが考えさせられたと思います。近年の災害を教訓に地域防災計画の見直しや避難所の備蓄品を増加し、また防災教育にも力を入れてきたことと思います。これからも町民の命を守り安心・安全に暮らせるよう日々刻々と変動する状況である現在、今までの経験を教訓に更に想定外を見据えた万全な体制を平時にどれだけ整えられるかが問われています。今年度に防災マップの改訂に着手し、平常時からの備え・情報の伝達に取り組みれようとしていることは高く評価しています。しかし、残念ながら、今まで活動する中で「防災マップ」を常に身近に置いて活用されているというお声は少なかったです。専門家の意見や女性の意見も取り入れた町民が興味を示しやすく、見やすさ、わかりやすさに留意して改訂されますことを期待しています。そこで、防災マップを活用し、子どもから大人まですべての町民が大切な命を守る行動を取れるよう町はどのように周知し、実施されようと検討されているのかお伺いいたします。</p>	町長

	<p>また、高齢者、視覚障がいや聴覚障がいの方等の避難困難者への対応に関する情報は十分に周知していないと助けることは出来ないと考えます。町の見解をお伺いいたします。</p>	
<p>子ども未来について</p>	<p>次に教育行政執行方針の中の2子ども未来についてお伺いいたします。当別町においても人口減少問題は喫緊の課題であることは皆が思うこととあります。その中でも子育て世帯がこの素晴らしい自然環境のなかでのびのびと安心してどう子供を産み育てる事が出来るかが問われております。現在の社会情勢の中、共働きが増え、様々な困難を抱えながらも必死に子育てをしている家庭をしっかりと支えていく、そういう子育て支援の充実は何よりもとても重要と考えます。</p> <p>初めに「就園援助事業」の実施についてお伺いいたします。今年度予算の中に乳幼児等医療費助成事業において通院医療費助成対象を小学校就学前から小学校卒業までに拡大されることにより経済的負担の大きい医療費に対して、負担が軽減されることが盛り込まれておりました。また教育行政におきましても幼児教育・保育の無償化制度により「食費（主食費）」と「教材費」について助成となる事業を実施することとなっております。そこでこの事業を実施するまでの経緯と生活保護者世帯のみを対象とされた見解や今後の見通しについてお伺いいたします。</p> <p>二つ目は「保育士等就労支援事業」についてお伺いいたします。全国的に保育士確保に苦慮している状況の中、当別町においても人間形成に一番重要な時期の幼児教育を担う、より良い人材の確保はとても重要と考えます。保育士確保の課題を克服するためにどのように周知し、当別町を選んでもらい居住し、働く意欲に結びつけていくのか。どのような人材を求めているのか見解をお伺いいたします。</p>	<p>教育長</p>